




分類番号	丁	3	6	/
保存期間	1・3・5・10・永			
議長	事務局長	事務局員		
				

様式第5号(第5条関係)

令和4年 4月20日

矢巾町議会議長 様
藤原由巳

会派名 町民の会
代表者名 廣田 清実



令和3年度政務活動費収支報告書

矢巾町議会政務活動費の交付に関する条例第9条第1項(第2項)の規定により、
次のとおり令和3年度の政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 720,000円

2 支出

項目	金額(円)	主たる支出の内容
調査研究費	86,737円	交通費、旅費
研修費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
広報費		
事務費		
合計	86,737円	

3 残額

633,263円

備考 政務活動費支出明細書、調査研究等実施報告書、領収書等の写しを
添付すること。(A4)

政務活動費支出明細書

(会派名 = 町民の会)

(調査研究費・1枚のうち1枚)

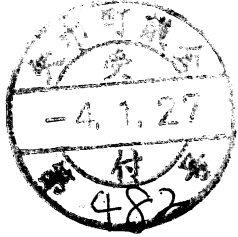
No	支出年月日	件名	内容	金額(円)	備考
1	令和4年 1月11日 ～ 12日	調査研究費	[目的・視察先] ① 台風19号の被害における災害復興について (曾代村役場) ② つちのご保育園の取組みについて (曾代村役場及び現地) ③ 村営「国民宿舎くろさき荘」のコロナ禍経営状況について(くろさき荘) ④ 村営「道の駅青の国ふだい」の運営について (道の駅ふだい)	86,737	
計				86,737	

様式第8号(第6条関係)

分類番号	3	6	0
保存期間	1	3	5
10	永		
議長	藤原	由巳	様
事務局員			
会派名			
代表者名			

令和 4年 1月27日

矢巾町議会議長 藤原 由巳 様



報告者氏名

町民の会
廣田清実
廣田清実



調査研究等実施報告書

実施年月日	令和 4 年1月11日(火) ~ 4 年1月12日(水)
参加者名 (5 人)	廣田清実、高橋七郎、高橋安子、藤原信悦、吉田喜博
目的	1. 台風19号の被害における災害復興について 2. つちのこ保育園の取組みについて 3. 村営「国民宿舎 くろさき荘」のコロナ禍経営状況について 4. 村営「道の駅青の国ふだい」の運営について
行先	岩手県下閉伊郡普代村
対応者 又は 主催者	町民の会 廣田 清実
概要及び 見所	別紙にて報告
経費	86,737 円 (内訳は別紙のとおり)

調査研究等経費内訳

(会派名 = 町民の会)

<div style="text-align: center;">(調査研究費) ・ 研修費 (いずれかを○で囲む)</div>					
交通費	交通機関名	経路	計 算	計	備考
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
	タクシー			円	
	レンタカー	矢巾町～普代村 往復		32,120 円	整理番号 1-1
	有料道路料金			円	
	駐車料金			円	
	燃料代	矢巾町～普代村 往復		4,017 円	整理番号 1-2
				円	
宿泊料	宿泊日	宿 泊 先	計 算	計	備考
	1 / 1 1	国民宿舎くろさき荘	9,900 円× 4 人	39,600 円	整理番号 1-3
	1 / 1 1	国民宿舎くろさき荘	11,000 円× 1 人	11,000 円	
			計	50,600 円	
資料代		円× 人 =	円		
		円× 人 =	円		

合 計	86,737 円
-----	----------

備考 領収書等の写しを添付すること。

(任意様式)

項目区分	調査研究費
整理番号	1-1

領収書その他の書類の添付欄



領 収 書

No. 135737

R4 年 1 月 12 日

矢巾町議会町民の会 様

領収額 ¥ 32,120 -

領収種別 (現金・小切手・クーポン・振込・クレジット・NBM)

R NO: FVJA9011

但し レンタカー代として

消費税 ¥ 2,920 を含んでいます

上記金額正に領収致しました

税別 50,000 円
以上は印紙
貼付のごとく印

ニッポンレンタカー東北株式会社

(本社) 〒980-0014 仙台市青葉区本町一丁目20番

電話(022)225-6951

発行営業所	扱者
矢幅駅東口営業所	

矢巾町～普代村 往復レンタカー使用

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。
(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通費の場合、利用区間が記入されているか。

支払年月日

令和4年 1月 12日

他会派との按分 (なし)・あり

(按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載)

会派名 町民の会	32,120 円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
合計	32,120 円	領収書の金額と一致

※ 1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

(任意様式)

項目区分	調査研究費
整理番号	1-2

領収書その他の書類の添付欄

ENEOS

納品書(領収書)

2022年01月12日 15:32

売上 町民の会 様 M

6-210196-49998-001

現金フリー

車両番号 実車番

0026-00

レギュラー P-02

25.75L

*

156円 ￥4,017

合計 ￥4,017

(消費税10%対象 ￥4,017)

内消費税等 ￥365)

現金でお買上げの場合は領収書にかえさせていただきます。

ENEOSフロンティア北東北Co

DD矢巾店

岩手県 紫波郡 矢巾町

南矢幅第13-117-1

TEL:019-697-2834 SS-210196

シートNo 5425-01

デ-9No8405-8406

003

2022/01/12

矢巾町～普代村 往復レンタカー使用燃料代

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。
(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通費の場合、利用区間が記入されているか。

支払年月日

令和4年 1月 12日

他会派との按分 (なし)・あり)

(按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載)

会派名 町民の会	4,017 円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
合計	4,017 円	領収書の金額と一致

※1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

(任意様式)

項目区分	調査研究費
整理番号	1-3

領収書その他の書類の添付欄

*2 00024179

発行日付
(DATE) 2022.1.12

請求領収書

(RECEIPT)

三陸復興国立公園

国民宿舎

くろさき荘

管理者
岩手県下閉伊郡普代村第2地割84の4
電話 (0194) 35-2611(代)
FAX (0194) 35-2872

取引銀行 岩手銀行野田支店(替) No.039405

印紙税法第5条

第1号
印紙
非課税

御利用額
TOTAL AMOUNT 1/2
¥50,600 *

御芳名(NAME)

矢巾町議会様 町民の会

預入金 (DEPOSIT)	クーポン/バウチャー (COUPON/VOUCHER)	その他入金 (MISCELLANEOUS)
¥0	¥0	¥0

御請求額
TOTAL BALANCE
¥50,600

請求明細書

客室番号(ROOM No.)	人数(PERSONS)	泊数(NTS)	伝票番号(No.)	発行日付(DATE)
609	5 0 0	1	00024179	2022.1.12

日付 DATE	科目名称 DESCRIPTION	数量 QTY	単価 PRICE	金額 AMOUNT
1.11	浜かぜプラン大人2食付	4	9,900	39,600
	浜かぜプラン大人2食付	1	11,000	11,000
	利用合計			50,600
	(内消費税合計)			(4,600)

全込
全込

宿泊：国民宿舎くろさき荘 5名分

確認項目

- あて名欄は、会派名となっているか。
(複数会派合同の場合は、全ての会派名)
- 但し書きが具体的な記載となっているか。
- レシートの場合、上記2項目の加筆がされているか。
- 鉄道やタクシー等交通費の場合、利用区間が記入されているか。

支払年月日 令和4年 1月 12日

他会派との按分 (なし)・あり

(按分ありの場合、会派ごとの負担額を記載)

会派名 町民の会	50,600 円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
会派名 _____	円	
合計	50,600 円	領収書の金額と一致

※1枚につき、1支出項目分の領収書等を貼付

「町民の会」普代村行政視察研修報告書

- | | | |
|-----|-------|--|
| (1) | 視察研修名 | 普代村視察研修 |
| (2) | 日 時 | 令和 4年 1月 11日 |
| (3) | 場 所 | 普代村役場 3階委員会室 |
| (4) | 時 間 | 13時 30分から 15時 00分 |
| (5) | 対 応 者 | 総務課 課長 川向 正人
総務課 主事 安田 要
建設水産課 課長 大村 修
議会事務局 局長 松葉 義人 |
| (6) | 研修内容 | 台風 19号被害における災害復興について |

令和元年に発生した台風 19 号の被害は、災害規模が大きく応急対策、被害調査、復興対策に甚大なる支障をきたした。

災害直後の応急対策は、自衛隊等から応援していただき公共土木災害については、盛岡市と滝沢市から災害調査資料作り等の応援をいただいた。そしてその後の工事発注、施工管理に関しては現在も滝沢市、二戸市から応援をいただいている。

- ・林道災害は振興局及び治山林同協会から査定、工事発注までし導応援をいただく。
- ・水道災害については、施設内の土砂の撤去は自衛隊からの協力応援復旧までの水道確保のため久慈市、洋野町から給水車を提供にて対応。
- ・災害復旧の発注については、大規模な工事については A 級業者に発注し、それ以外については村内地元業者 5 社に発注している。

道路災害 57 か所、完成 40 か所、約 7 割の復興状態である。

○所 見

災害はいつ起こるか分からないことから、普段から災害への対応策をマニュアル作成していることまた、人事異動による職員の配置替等、不慣れによる対応不足が生じないように、研修会・訓練での職員のスキル向上に務められたい。

本町において職員の災害対応力の強化及び住民の自助・共助の精神が高まる事を望む。本町においては、議会が災害対策組織を形成した事は望ましい事である。

- (1) 視察研修名 普代村視察研修
- (2) 日 時 令和 4年 1月11日
- (3) 場 所 普代村役場3階委員会室
天候不順の為、役場庁舎内にて詳細説明（翌日現地視察）
- (4) 時 間 16時10分から17時00分
- (5) 対 応 者 NPO 法人地球の仕事大學：高浜大介理事長
園長 高浜 菜奈子
県駐在特命課長 土澤 智
政策推進室 室長 森田 安彦
政策推進室 係長 中村 克成
- (6) 研修内容 つちのこ保育園の取組み状況について

- 1 つちのこ保育園とは、子どもも大人もありのままの自分で“今”を存分に生き、地球上で共に生きる、健やかで循環する暮らしを創る力の基礎を培うことを目的に創設された。
- 2 北欧発祥である「森の幼稚園」は全国には200以上が存在するが、東北地方には数少ない状況（岩手県は普代村のみ）
- 3 園長は、大人が指示するのではなく、子どもたちが自然の力を借りながら、ありのままの自分を生き、のびのびと過ごして欲しいとの考えから、令和3年4月に3歳児から5歳児までの保育園を開園したものである。
- 4 一日のカリキュラムは、自由遊びや畑作業、野外調理などを中心に、林の囲まれた園地を中心に好きなことに没頭し一日を過ごす。

○ 所 見

自然と交わりながら過ごす一日は、昔の子ども達が普通に体験した光景であったが、現在では殆どが乳幼児から保育園に通い大人が決めたルールの下で園や学校生活を送るのが通常となっているのが現状である。

今後、本町にも自然が多いこともあることから近くの森や公園、農地等を利活用しながら、自然体験させることも重要であると感じた。

本活動は不登校児童生徒への対応として、フリースクール等に於いてもこのような自然体験を通じて考える力や社会性を養うことが出来るのではないかと思われる。

- (1) 視察研修名 普代村視察研修
- (2) 日 時 令和 4年 1月 11日
- (3) 場 所 普代村役場 3階委員会室
- (4) 時 間 15時 10分から 16時 00分
- (5) 対 応 者 農林商工課 課長 山崎 長蔵
- (6) 研 修 内 容 普代村村営 国民宿舎くろさき荘の運営について

1. 施 設

昭和 36 年開業、昭和 56 年増築(リニューアル)、平成 4 年増築
一般社団法人国民宿舎協会会員

2. コロナ禍におけるくろさき荘の利用状況

(1) 宿泊者 … 年々減少傾向にある

①R1 年度/R2 年度 8,181 人/7,104 人(1,077 人減)

②R2 年/R3 年(4 月～12 月分) 5,543 人/5,117 人(426 人減)

- ・三陸自動車道工事関連等もあり、宿泊者の約 7 割はビジネス客であったが、その後比率は低下している。
- ・利用目的を矢巾町国民保養センターと比較すると、以下のとおり。

	目的	令和 1 年		令和 2 年		差 異
国民保養 センター	宿泊	2,370	2.7%	588	0.9%	▲1,782
	入浴	84,218	97.3%	61,867	99.1%	▲22,351
	計	86,588	100.0%	62,455	100.0%	▲24,133
くろさき 荘	宿泊	8,181	45.0%	7,104	43.0%	▲1,077
	入浴	10,000	55.0%	9,400	57.0%	▲600
	計	18,181	100.0%	16,504	100.0%	▲1,677

- (2) お風呂日帰り利用者 昨年対比で 6%減。
入湯利用金は 700 円、閑散期は割引あり。
- (3) 忘年会、新年会等の利用 コロナ禍でなし。

3. 運営体制

従業員 14 名内、会計年度職員 9 名(フロント 4 名、厨房 2 名、他 3 名)
パートタイマー 5 名

- ・人件費 R1 年度 35,128 千円、R2 年度 38,870 千円

※R2 年度会計年度職員に移行、期末手当あり。

4. 施設を利用いただくための取組み

(1) 教育震災ツアーを企画

- ・ 県内の小学校に利用いただく。

(2) みちのく潮風トレイルとの企画

- ・ 国立公園や温泉とトレイルコースを組合せ、くろさき荘の利用を図る。

(3) きずなトレイン(クラブツーリズムで企画)

- ・ 漁師、三鉄、普代村が一緒になって行う企画

漁師が案内人となり、三鉄で移動しながら景勝地を紹介、太田名部漁港の番屋で番屋飯を食べるなどの企画

(4) インターネット等の活用

- ・ HP、楽天トラベル、じゃらん、ヤフー、るるぶ
- ・ クラブツーリズム

(近畿日本ツーリストグループの1社。新聞広告や会員情報誌で旅行商品を提供し、電話やインターネットで申し込みを受ける非店舗型の旅行会社)

(5) くろさき荘からの海の眺望をよくするため、今後、立木の伐採を予定。

○所 見

- ・ ビジネス関連の宿泊者減少分を補う意味で、観光目的の宿泊者をどう確保するかが業績改善のポイントと考える。これまでいろいろな企画や取組みをしているようですが、くろさき荘、普代村だけで考えては観光という点では魅力度にかけると思われる。宮古市や久慈市等の近隣広域での観光の魅力の発信、三陸鉄道やバス会社との連携深耕も必要と考える。三陸自動車道全線開通もあり、交通の便が良くなった今がチャンスではないか。
- ・ 翻って、矢巾町の保養センターについても検討が必要と思われる。町内に年間を通じて楽しめる観光地はどれだけあるのか。また、広域観光の宿泊地にしようとしても、近隣のつなぎ温泉や花巻温泉ほど魅力があると言えるのか。また、運営母体の矢巾観光株の財務状況をみても、町からの指定管理料抜きでは採算が合わない現状を町民は本当に納得するだろうか。宿泊部門は閉鎖し温泉部門だけを継続するのか、あるいは、事業全体を廃止するのか決断すべき時と考えます。

- (1) 視察研修名 普代村視察研修
- (2) 日 時 令和 4年 1月12日
- (3) 場 所 道の駅「青の国ふだい」
- (4) 時 間 午前10時～12時
- (5) 対 応 者 株式会社 青の国ふだい 部長 久保 弘昭 (村おこし協力隊)
 政策推進室 室長 森田 安彦
 政策進室 係長 中村 克成
 議会事務局 主事 新屋 一郎
- (6) 研修内容 道の駅「青の国ふだい」運営取り組み状況について

整備内容 改修事業費 1億6,800万 (社会整備事業交付金を一部活用)

敷地面積 5,952 m²

道の駅のコンセプト

1. 「交流拠点」人々が集い交流する。
2. 「産業振興拠点」農林水産業・食文化を育てる。
3. 「情報発信拠点」青の国ふだいの魅力を発信する。

運営経費

1. 指定管理費 約480万 (村より)
2. 観光協会からの委託費
3. 三陸鉄道からの駅運営委託費
4. ふるさと納税の返礼品発送業務委託費 (納税額の9%)

運営状況

コンパクトな道の駅であり、三陸鉄道の駅と併設している。

行政、商工会、観光協会、三陸鉄道などと連携して、また商店街とも共存共栄をしている取組み等で重要な拠点となっている。

経費も抑えられて、適切な運営と感じてきました。

○所 見




東日本大震災を機に進められてきた三陸沿岸道路の全線開通を機に、村では、普代村玄関となっている三陸鉄道普代駅を交流、産業振興、情報発信の拠点とするよう拠点施設を最大限に活用しての再整備を行い、道の駅の登録認定を受けている。

道の駅としての全国に情報発信出来て居るが、販売スペースが狭く、また商店街とも共存共栄をしている取組み等で、販売の品数も少なく水産物は主に加工品、農産物は販売していないので検討を図られたい。

本町でも道の駅構想も有るが、情報収集し適切な対応を望む。

分類番号	3361
保存期限	1・3・5・10・永


様式第8号 (第6条関係)

議長	事務局長	事務局員
		

令和4年1月31日

矢巾町議会議長 藤原田巳様



会派名 町民の会
 代表者 廣田清実 
 報告者氏名 廣田清実

調査研究等実施報告書

実施年月日	令和3年12月22日(水)
参加者名 (9人)	矢巾明進会 長谷川 和男 村松 信一 町民の会 廣田 清実 高橋 安子 高橋 七郎 水本 淳一 藤原 信悦 吉田 喜博 公明党 小笠原 佳子
目的	年間を通じた農業活動及び経営について
行先	紫波町「農事組合法人 水分農産」 紫波郡紫波町小屋敷四方田139-1 電話(019)673-7687
対応者 又は 主催者	矢巾明進会 村松 信一
概要及び 所見	別紙のとおり
経費	0円 (内訳は別紙のとおり)

調査研究等経費内訳

(会派名 = 町民の会)

調査研究費 ・ 研修費 (いずれかを○で囲む)					
交通費	交通機関名	経路	計 算	計	備考
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
	タクシー			円	
	レンタカー			円	
	有料道路料金			円	
	駐車料金			円	
燃料代			円		
			円		
宿泊料	宿泊日	宿泊先	計 算	計	備考
			円× 人	円	
			円× 人	円	
			円× 人	円	
資料代		円× 人 =	円		
		円× 人 =	円		

合 計	0 円
-----	-----

備考 領収書等の写しを添付すること。

会派合同視察研修 農事組合法人 水分農産

【研修実施日時】 令和 3年12月22日 13時30分～16時30分

【参加者】 矢巾明進会：村松信一

町民の会：廣田 清実、水本 淳一、高橋 安子、

高橋 七郎、藤原 信悦、吉田 喜博

公明党：小笠原 佳子

【視察の目的】 年間を通じた農業活動並びに経営について学び、本町の農業発展に活かす。

【講義説明者】 会長 西田 守氏

【内 容】

1. 組合の沿革

- 昭和56年 基盤整備の年。「水分麦組合」を結成(組合員7名)
コンバイン6台購入。立毛間播種方式。
尚、立毛間播種は以下の問題があり、現在は使われない方式
・稲の刈取り時に麦が混入する ・発芽率が悪い
- 昭和63年 上記組合より「水分農産」を結成(4戸8人で)
- 平成2年 ライスセンター竣工。乾燥機4基設置。(処理4,000俵)
後に、乾燥機11基、粳摺り機設置。(処理12,000俵)
- 平成8年 8月8日農事組合法人に移行。名称「農事組合法人水分農」
- 平成9年 もちの加工工場完成。
- 平成22年 小松菜栽培開始。(有)おっとちグリーンステーション(登米市)
を視察し、参考にした。
- 平成23年 農地借入増やす。常勤の従業員を置く。
- 平成24年 そば製粉施設完成。5/6の補助金活用。
- 平成25年 キャベツの栽培開始。赤字となる。
- 平成30年 加工用玉ねぎ栽培開始。1反当り15万円の補助あり。但し、
加工用、契約で5年の縛りあり。
生産量 1年目130t、2年目360t、3年目天災・照
不足で不作、4年目(令和3年)350t(目標400t)

2.目標 一年を通して働ける会社にする

〈農家を取り巻く環境の変化〉

- 就農者のピーク年齢層が高くなっている。
2015年60～64歳 → 2020年65～69歳
- 基幹的農業従事者の減少 ← 高齢化によるリタイヤ
- 若手後継者の減
- 離農により供給される農地の増加

〈紫波町の離農により供給される農地の予測値〉

出典：「AI を用いた農業経営体数予測モデル」

農業情報研究センター寺谷 諒

(単位：ha)

	2020年	2025年	2030年
田	257	489	696
畑	33	63	88
樹園地	32	61	88
計	322	613	872

3.組合員数、施設 別紙レシユメ参照

- パートさんの平均年齢 45 歳
繁忙時は 22～25 人に
- 施設別平均年齢
米穀部門(本部所在地) 40 歳、野菜部門(今回訪問) 28 歳

【質疑等から】

1.もみ殻を使った暖房機(200万円/台)の効用は。

- 火力も強く、クリーンである。
- 灯油と違い、コストがかからない。
- 焼却灰は土壌改良に使える。

矢巾町はもみ殻を暗渠として利用しているが、紫波ではこれから。
クローラトラクターは5台所有しているが。

注)クローラトラクターは駆動部分がホイールではなくキャタピラー
タイプのもので、沈みにくい特性をもつ。

2.子実用トウモロコシの取組について (今回視察できず)

- 耕作面積は3町歩。県も力を入れている。
- 人手がかからず、麦との輪作が可能。
- 単価は飼料米より高い。
- 高齢化に伴う担い手の減少による農地の供給過剰にも対応できる。

【所 見】

年間を通して雇用を維持している事は、農業をする若者にも勇気と希望をもたらす事業運営であった。

また、農場長も矢巾から通っている若い人であり、令和4年には矢巾に帰って、この運営の経験を活かし矢巾で農業をしていくと聞きました。

頼もしいと感じた事と、必要な支援が出来ればと思いました。

以 上